ふかまちのまど
第三二号
九六年一二月一日

病原性大腸菌「O-157」の予防

高下　水野秀彦

病原性大腸菌「O－157」による食中毒が、全国各地で発生しています。「O－157」についてよく知り、一人ひとりが注意して、予防を確実に行えば感染は防げます。

◆「O－157」とは？

大腸菌は、人や家畜の腸管内に生息し、腸管内の大多数を占める菌のひとつです。そのほとんどは無害ですが、このうち、いくつかのものは人に下痢を起こすことがあり、「病原性大腸菌」と呼ばれています。「O-157」はこの病原性大腸菌の仲間です。赤痢菌が産生する志賀毒素に似た「ベロ毒素」を産生するものが多く、腸管出血性大腸菌のグループに分類されています。

なお、大腸菌は「O抗原」と呼ばれる菌の成分により、現在173番目に検出された抗原型が「O－157」です。（平成八年八月六日伝染病に指定）

◆こんな症状に要注意！

一、はじめ「だるい」「元気がない」といった症状（風邪と間違いやすい）

二、感染後四日～九日で、それから下腹部にかけての激しい腹痛と下痢

三、水溶性下痢から一日～二日後に出血性下痢に

四、発熱や嘔吐を伴うこともある。

※症状から感染が疑われる時は、直ちに医師の診断を！「特に子供の下痢では、便の状態（どの程度の水状か、血は混ざっていないか）をよく見て、医師に報告を」

◆「O－157」による食中毒を予防するために

「O－157」は他の食中毒菌と同様熱に弱く、加熱により死滅します。また、どの消毒剤でも容易に死滅します。したがって、いたずらに「O－157」を恐れないで通常の「食中毒の三原則」を守れば可能です。

食中毒予防の三原則とは

① 清潔（細菌をつけない）

② 迅速（細菌が増える時間を与えない）

③ 加熱又は冷却（殺菌・細菌を増やさない）

ただ、「O－157」は、他の食中毒菌と異なり少量の菌で感染することから、「食中毒の三原則」①②③を今以上に徹底することが大切です。具体的には次のとおりです。

一、食品は十分加熱する。（「O－157」は中心温度が七五度で一分以上加熱で死滅）

二、手指や調理器具は十分に洗浄、消毒する。（特に「生肉」が触れた、まな板、包丁、食器類は熱湯等で十分消毒し、手指も必ず洗う。）

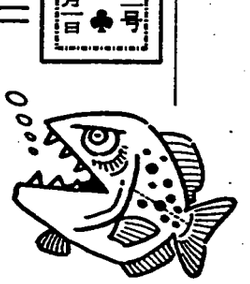
三、野菜は、流水でよく洗い、肉は火を十分に通して食べる。

四、調理した食品は速やかに食べる。（すぐ食べられない場合は、冷蔵庫に入れ低温で保管する。冷凍庫は過信しない。）

五、井戸や受水槽の周辺を清潔に保つ。（定期的に水質検査を行う。）

▲▲

筆者は東広島保健所勤務



中国の旅こぼれ話（二）

＝中国文字雑感＝

高崎壽郎

昨秋十月、中国（西安・敦煌）へ旅立った。初めての海外旅行で期待も大きかった。独断と偏見も多いと思うが、その時の感想を、「旅のこぼれ話し」として書いていきたい。

この旅に当たって、私の覚えた中国語は、你好（こんにちは）のニイハオと謝謝（ありがとう）のシェシェの二語である。中国は同じ漢字を使う国であり、意味が通じない時は筆談でもと考えていた。が、実際はそうはいかなかった。

▼中国文字を紹介したい▲

雄大なスケールで展開される三国志演義は「桃園の誓い」で物語は始まるが、義兄弟となった劉備・関羽・張飛は今は、刘备・关羽・张飞と書く。もう少し例をあげると、

见（見）、电（電）、产（産）、业（業）、车（車）、时（時）、马（馬）、风（風）、归（帰）、胜（勝）、义（義）、术（術）、工（衛）、际（際）、华（華）、汉（漢）、などまだまだ多い。

（　）は私達が使っている漢字。

中国は漢字ばかりの国だから、みんなが読み書きし易いように思い切って簡略化したと思われる。我が国は千年も昔の平安時代に片平仮名が発明され、文字がみんなの身近なものになった。現在、字の読み書き出来ない人が世界一少ないのも、このお陰だと考える。

我が国と意味の異なる単語もある。汽車は自動車のことで、日本でいう汽車は中国では火车と書く。手紙はトイレットペーパーのことで、日本でいう手紙は信、切手は手を切る意味で、中国では郵票、故人は亡くなった人でなく親しい友をいう。

街は色とりどりの看板が溢れているが、どうにか判読できる。でも会話はできない。折角の機会だから、もう少し中国語の勉強をして行くべきだった今になって思うことしきりである。▲▲

次号は「ホテル」の寝巻」

セクハラとスキンシップ

坪見博文

以前日本の企業が、アメリカでセクハラが問題になっていると聞いた。同じ行動をしても、アメリカではセクハラと受けとられる。

私は、昭和五十二年三月までサラリーマンだった。その頃私も、女性に好かれたり嫌われたりした。人生陽気な時も落ち込む時もある。陽気な時には相手の人にも陽気になってもらいたくて、つい、オシリやオッパイにさわり励ますことがあった。ところが、意気投合する人と、逆にケンカになる人とあった。相手の気持ちで結果が違うのだ。

野球で暴走と好走は紙一重という。そのわずかな判断で人生が変わることがある。進学、就職、転職。結婚、ある人は離婚と、その節目が多段ロケットの切り替えなのだ。

目、耳、鼻、肌。と判断する感覚はあっても、他人の「心」を知るものはない。人生の不思議である。だから生きることが楽しいのだ。宝くじを買って抽選日まで楽しむのと似ている。

お見合いをするまでのドキドキ、ラブレターの返事の届くまでのヤキモキ。進学、就職試験結果の通知を待つ辛さ等、自分の意志では決まらないことが多い。

人が社会をつくり、社会が人を育てる、という。捕手が投手を育てる。すばらしい女房役がいて物事は成長する。

未知の世界に好奇心を持ち、相手の心を理解する努力をお互いが持てば、世の中まるくおさまり、セクハラがスキンシップに染まると思う。▲▲

歩道が具体化

十一月二二日、深町民会館で地権者の皆さんと、県土木建築事務所担当課間で歩道設置について、詰めの話し合いがなされました。

個人別地籍面積　積算結果の通知、買収予定区画の縦覧がありました。

次の段階で価格係数と単価が提示される予定です。

お悔み申し上げます

★坂本しづえ様　六八歳　九日

十二月町内行事予定

◆小学校（幼）

▼学習発表会　一日　▼廃品回収　八日　▼参観日・期末懇談会・（幼）家庭教育学級　一二日　▼給食終了　二〇日　▼終業式　二四日

◆尚寿会

▼町民会館草取り　一五日

◆女性会

▼親睦会　上　二七日・中　七日・下　六日　▼普通傷害共済推進　三一日

◆消防団

▼上級幹部研修会　一日▼年末警戒　二七日～三一日

お知らせ

町民会館内に電話を新設しました。カードは使用できません念の為。

展望席

どこまで続くぬかるみぞ ――政・官・業に加え「学」までが新鮮なニュースを提供してくれる。ノーベル賞候補推薦の役を担っていた京大教授がセクハラの責めを受け大学を去ったのはつい二～三年前。最近では鳴門教育大セクハラ発覚。

医の分野ではエイズに続き、今月は京大教授の収賄容疑。▼年度末が近づけば予算消化で土木工事が増える、とよく耳にしたものだが、公立学校では空出張等で消化している（十二月長雪）――由。空出張疑惑の福岡県職労は「既得権」とおっしゃる。▼ブラックニュースの供給元霞ヶ関。今度は福祉が喰い物になった。拝金主義が横行していると言うことか。国家の存亡をかけた日清・日露両戦役前夜の政・官・財指導者の発想原点に学びたい。この人たちの行動規範は何だったのだろうか？。▼暗いニュースの氾濫で気が滅入る。明るい話はないかと探していたら。――お手柄「ペリー」に感謝状とドッグフード一か月分贈呈。犯人逮捕のきっかけをつくったワンチャンに。廿日市警察署長のイキな計らいである。

校舎と共に
― 冬休みあれこれ ―

石井哲代

多忙をきわめた秋のとりいれも、柿の収穫も無事に済み、苺の苗玉葱の植え付け一段落で、ホット一息というところで冬休みを迎える醍醐味は農村ならこそと今で尚、しみじみと思うのです。

さて、冬休みの過ごし方、暮らし方は今も昔も学級で話し合い、上組・中組・下組の学区子ども会で話し合っていると思います。冬休み帳、漢字や計算の錬習のめあてをきめていました。そして、凧をつくったり、揚げたり、竹馬に挑戦したり、マラソンを続けたり、冬休みならではの取り組みを戸外で元気に体を動かすことに重点をおいていたと思うのです。それと家の手伝いを必ず一つはきめて実行することにも重点をおいておりました。

冬休みがすんで始業の朝運動場は凧揚げでいっぱいです。父親に手伝ってもらった凧。父親のを手伝った凧、西洋凧いろいろでした。

○君は畳一帖程の大凧を通学班全員で、えっこら、やっこら持って来ました。みんなその大きさにびっくり。揚げようと吾も吾もと凧を持って風を待ちました。「ぴゅう」と風。「それ」と凧を離す。ズドン「それ」ズドン。とうとうその凧は揚がらずの凧になって了ったのです。大凧を撫で撫でしていた全校の子ども達。

そのⅡ。下組子ども会も学区一周のマラソンを実施しました。最終日は金堀の奥から山越えして中野の寺谷という集落へ出て応地側を通って帰るコースです。我が家の下を通るので休憩する予定です。親との懇談の折、「休憩の時黄な粉餅を出すつもり。」と話すと、「餅は食べやあせん。」と口々に言われる。

冬休み終りの日、十時過ぎハーハー言いながら深下組の一団がやって来ました。黄な粉餅をテーブルに並べました。ペロリ「お代り。」「お代り。」「ちょっと待って、なんぼ食べるんね。」「三つ四つ五つ六つ。一つでよい子は皆無。餅を煮るのにテンテコ舞いでした。「うちでは食べんのに：：」とは母親の弁。

お餅を頬張った子も、凧揚げに夢中だった子も今はいい若者。そしていいお父さんやお母さんです。我が子に、地域の子達にたくさんの想い出を、深町ならこその想い出をつくってやってほしいと思うのです。▲▲

深の方言なまり（三）

石井良雄

「い」

いいだや ― 桶屋
いえぬし ― 青大将
いお ― 魚
いかん ― 行かない
いがる ― 叫ぶ
いけん ― いけない・悪い
いしがら ― 石の多い土地
いず ― 柚子
いたしい ― むつかしい
いちがあな ― 頑固な
いっちょうらい ― 晴着
いつのかつなあにあー ― のべつ幕なし
いでせき ― いぜせき
いとうなる ― 痛くなる
いなげな ― ぶざまな・変な
いなす ― 帰らす・飲み込む
いぬる ― 帰る・去る
いらう ― 触る
いらまかす ― からかう
いるまあ ― 必要なかろう

「う」

うがす ― 木を掘り起こす
うせる ― なくなる
うそこき ― 嘘つき
うち ― わたし（女）
うね ― 峰
うみゃあ ― 美味しい・上手
うりい ― 雨・慈雨
うらあ ― わし（男）
うみゃあしこう ― うまいぐわいに

「え」

えー ― 宵
ええのー ― いいねえ
ええばちょ ― 罰当たり
えっと ― 沢山
えらー ― しんどい
えんだ ― 縁側
えんぼう ― 芋や去を入れるもっこ

「お」

おいこ ― 背負い梯子
おおどくしゃあ ― 生意気
おえ ― 表座敷
おおけに ― 有難う
おうじょうした ― 困った
おおて ― 土塀
おこし ― 腰巻き
おごーさん ― 奥さん
おざ ― 寺の説教会
おじゃみ ― お手玉
おじんじょう ― 正座
おせ ― 大人
おたんちん ― おばかさん
おってのー ― おられますか
おとでえ ― 兄弟
おべんちゃら ― おせじ
おらんで ― いないよ
おらぶ ― 叫ぶ

お気付きの点はお知らせください。☎六三―三九一七　石井